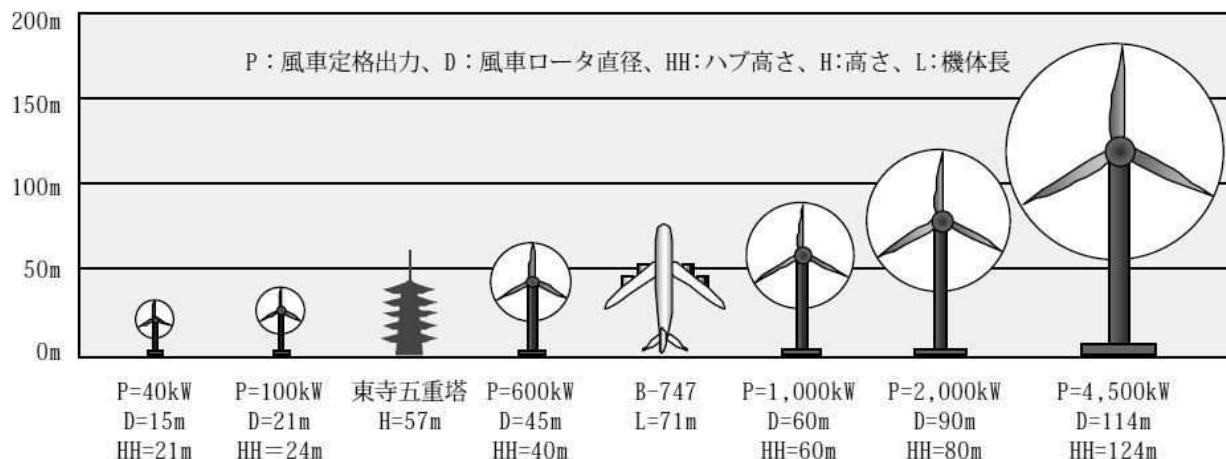


(3) 風力発電設備の大きさ

○ 風力発電設備は大型化が進んでおり、1基当たりの平均出力は2009年度で2,012kW。



注：我が国に導入されている風力発電設備は最大で3,000kWである。

図 3-3 風力発電設備の大きさ¹⁾

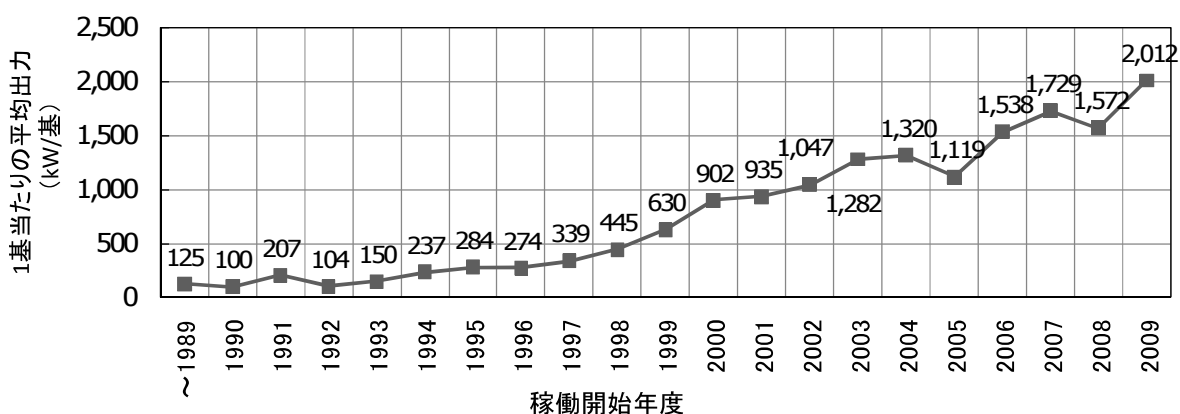


図 3-4 1基当たりの平均出力の推移¹⁾

○ 環境省総合環境政策局環境影響評価課において、定格出力別のハブ高さ（地面から風車ロータ中心までの高さ）やロータ直径について調査した結果を以下にまとめた。

- 平成22年3月現在で稼働している風力発電所のうち、定格出力が1,000kW、1,500kW又は2,000kWの風力発電設備を含むものについて、当該設備の大きさを確認したところ、その平均値は表3-2のとおり。

表 3-2 稼働している風力発電所における風力発電設備の大きさの平均値

定格出力	ハブ高さの平均値	ロータ直径の平均値
1,000kW	63.0m (45.0m～68.0m)	60.0m (54.2m～61.4m)
1,500kW	64.9m (60m～80m)	71.5m (64m～84m)
2,000kW	71.4m (60m～80m)	79.5m (70m～83.3m)

- 国内での導入実績が多い風力発電設備の型式ごとのカタログを確認したところ、各型式のロータ直径は単一の値であるが、ハブ高さは複数の値が示されているケースが多かった。これらのカタログにおいて、定格出力が1,000kW、1,500kW及び2,000kWの風力発電設備におけるハブ高さは、それぞれ50～70m、62～100m、60～100mの範囲内のものが多かった。